第１回「考える会」の振り返り

日時：令和８年10月４日（日）午前10時～
場所：北里市民センター　講堂

北里地区の学校再編の方針（案）

北里地区における学校再編の大きな方向性として、以下のような**方針（案）**をお示ししました。

○　**児童生徒数の減少**と**学校施設の老朽化**が同時に進行していることから、**学校再編と施設の建替えを一体的に議論**する

○　**北里小学校、小木小学校、北里中学校の３校を再編**し、**北里小学校と北里中学校の敷地**を活用し新たに**小中一貫校**を設立する



北里小・中学校の敷地に、新たな学校の設立を検討する理由

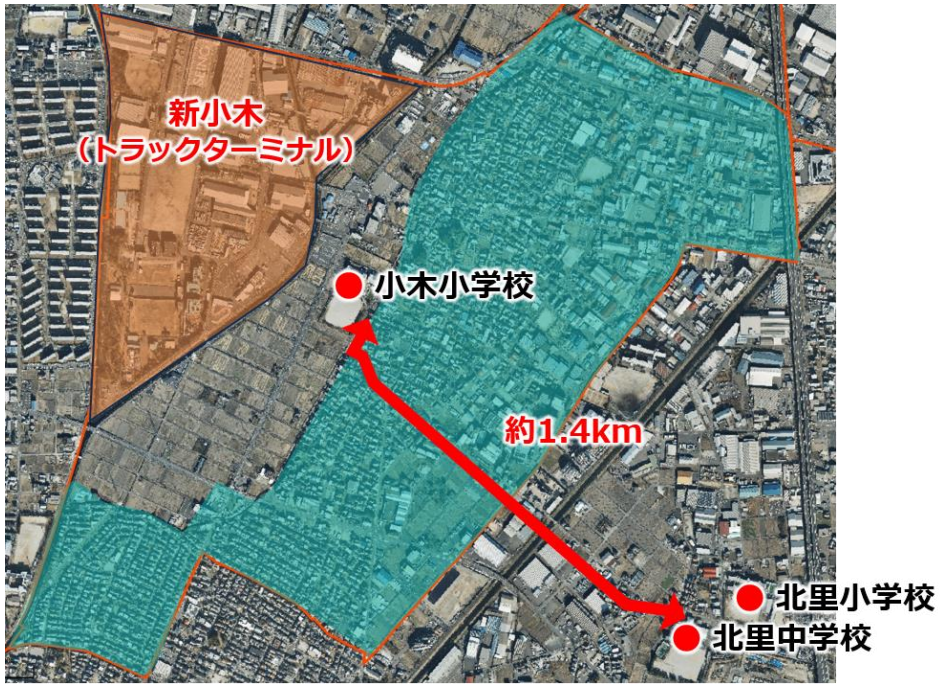
○　長らく**「北里小学校」**と**「北里中学校」**の１小１中であった歴史的背景

○　北里小・中学校周辺の施設（**保育園、児童館、市民センター、消防署など**）との**教育活動上の連携**

○　北里小・中学校の**敷地の一体的活用**による、**教育活動の幅の広がり**

○　現在の北里中学校の通学路を活かした安全でわかりやすい通学路の設定

（参考）
小木小学校から
北里中学校までの距離　**約1.4km**



小中一貫校の設立を検討する理由

【教育的な視点】

○　北里地区のほとんどの児童は北里中学校に進学（**小中の校区が概ね一致**）していることに加え、**地縁のつながり**が強く、学校教育においても**３校Ｐの取組**（PTA活動を中心に北里３校間での協働的な取組）などにより積極的に交流

⇒　**小中一貫教育による義務教育９年間の連続した学びの充実により**地域の教育的な強みをさらに活かせる

【行政経営上の視点】

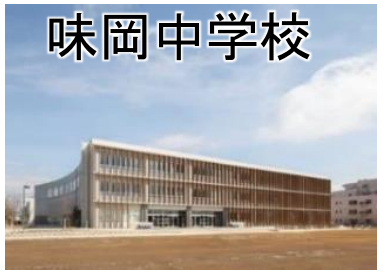
○　北里地区の３校すべてを改築するには多くの費用と時間が必要

⇒　小中一貫校とすることで建設コストを適正化
（コストを抑制しつつより良い施設）

（参考）学校施設を建て替える場合のコスト

（参考）
学校施設の改築
に係る工事費の実績









工事施工年度	H23～24	H25～26	R2～4	R8～11
建設規模				
建築面積（㎡）	4,989	6,253	5,242	4,365
延床面積（㎡）　**（A）**	10,624	11,966	10,853	8,687
敷地面積（㎡）	19,967	29,595	21,712	19,272
工事費（単位：千円）				
改築工事費（建築）	1,445,010	2,353,453	3,221,337	3,784,000
改築工事費（電気設備）	181,650	234,378	294,368	498,300
改築工事費（機械設備）	234,045	318,444	469,068	709,500
解体工事費	19,223	―	―	―
計　（B）	**1,879,928**	**2,906,275**	**3,984,773**	**4,991,800**
㎡単価… B/A(円)	**176,951**	**242,878**	**367,159**	**574,629**

小牧小と米野小の工事費（平米単価）の比較　**約3.2倍**

第１回で頂いた意見や提案など

「学校再編」に関するもの

若い保護者の意見をよく聞いて、計画に反映していただきたい。

再編には反対です。よりよい教育をめざすなら、「切磋琢磨」ではなく、**もっと少人数（１学年１クラス）にして、わかるまで教える教育をするべき**です。

どの環境においても子供たちが自分の出来る事、思う事、受け止めてくれる事、教育を根底に置いて学校再編の事業が出来ればと望みます。

学級規模と学校規模の違い

○　**学級規模（１クラスあたりの児童生徒数）を小さくする／小さくなる**

➡**「少人数学級」**

・児童生徒一人一人へのきめ細かな指導を可能となる
・学級内の人間関係が深まりやすい
・学級活動において、個別に活躍する機会を与えやすい

○　**学校規模（学校全体の児童生徒数／クラス数）が小さくなる**

➡**「小規模校」**

・多様な他者との関わり合いの中で異なる考え方や価値観に触れ、社会性や協調性、コミュニケーション能力を伸ばす機会が限られる
・授業や部活動、運動会や文化祭などの集団教育活動への制限が生まれる恐れがある
・職員数が少ないため、教員一人あたりの校務や行事に関わる不安が重くなる

学校再編後も**「少人数学級」**の取組や、**少人数指導**（グループ学習 等）など、**同様の効果が得られるような授業手法等**も実施していきます

参考：１学級あたりの上限人数

○　令和８年度から愛知県が国に先駆けて、中学校２・３年生の３５人学級化を段階的に実施

○　本市も愛知県と同様に、中学校２・３年生を３５人学級へ段階的に引き下げ

＜令和８年度の学級編成基準＞

対象	小牧市	国
小学校　全学年	**35人**	**35人**
中学校　１年生	**35人**	**35人**
中学校　２年生	**35人**	40人
中学校　３年生	40人	40人

※小牧市（愛知県）は、**令和９年度に中学校３年生を35人に引き下げ予定**
※国は、令和９年度に中学校２年生を、令和10年度に中学校３年生を35人に引き下げ予定

第１回で頂いた意見や提案など

「小中一貫校」に関するもの

小中一貫校への理解を深める必要あり。

小中一貫校については、デメリットも考慮して、考えるべきものと思います。
早急な導入は控えていただきたい。

小中一貫校については、時期尚早だと思います。

小中一貫校、一貫教育には賛成。

北小と北中の敷地は隣接はしていないため、**具体的な活用方法を早く提示して議論**してほしい。

（他２件）

第１回で頂いた意見や提案など

「通学」に関するもの

通学路の見直し・整備を十分に実施していただきたい。

交通量が増えてきているので、**通学の安全性**に取り組んでいただきたい。

児童数減少に伴い、一緒に登校する児童も減り、安全に登校できるかが今後、不安です。
小中一貫校となれば、小学生・中学生と一緒に登校できるような**通学路の再編**、もしくは**スクールバスなどの検討**をして頂けると将来的にも安心です。

自転車通学の選択、**スクールバス**の導入、**こまくるの利用**などを提案します。

（他５件）

第１回で頂いた質問と市からの回答

質　問	回　答
建て替え中の校舎はどこになるのか。	施設の建て替えの手法については、今後、**学校施設の基本構想や基本計画等を策定する中での検討事項**となりますが、過去の事例では建築工事中も授業等への影響を最小限にするため、**敷地内運動場などを活用**し、新校舎を建設するなどの手法を取ってきたところです。 今後、そういった新校舎建設に伴う児童生徒への影響の軽減策についても、学校再編と併せて検討してまいります。